

町長基本政策集48 新たに取り組む主な事業

資料1-2

企画振興課 まちづくり政策係

町長基本政策集に掲げられた基本政策のうち、平成31年度から新たに取り組む事業を4つの章ごとに掲載しています

1 人口減少社会への挑戦

- 子どもの見守りや防犯を目的とした町内巡視の安全安心パトロール事業 4,456千円
- 防災行政無線用戸別受信機整備事業(200基) 10,024千円
- 防犯カメラの設置 381千円
- みのわU・ターン応援プロジェクト(詳細別紙) 183,800千円

2 希望を持てる町へI ～子育て、教育から生き生きシニア、そして介護～

- 箕輪町健康づくり推進条例、箕輪町受動喫煙防止条例の制定
- 看護小規模多機能型居宅介護事業所の整備支援 47,700千円
- フッ化物洗口・フッ素塗布 922千円
- 子どもの学力向上のため標準学力検査の導入 1,768千円
- 保育支援システム導入事業 7,142千円
- 保育園の空調設置工事 30,000千円
- 学校ICT(タブレットPC・大型提示装置) 15,080千円
- 学童北部教室改築 16,751千円
- 女性の働きやすい環境づくり補助金 1,500千円
- 生涯学習施設の計画的な改修(町体、武道館の耐震改修実施設計) 19,440千円

3 希望を持てる町へII ～産業のある町、快適な暮らしのある町～

- 農業機械等導入事業補助金 7,000千円
- 農ある暮らしを楽しむ「部活動」～みそ部～ 272千円
- 箕輪町工業ビジョンによる取組み(別資料)
- 観光戦略プラン策定事業 150千円
- JR木ノ下駅公衆トイレ建設事業 14,931千円

4 住民に信頼され、期待に応えられる行政運営

- 行政経営計画、職員人材育成基本方針に基づく取組み
- 町長への手紙
- 公共施設等総合管理計画(個別施設計画)の策定

提言いただいた政策や要望の予算化

企画振興課 まちづくり政策係

町議会、職員の政策研究、箕輪進修高校の研究などから提案をいただいた政策や要望について担当課などで検討し、平成31年度予算等として計上した事業です。

議会からの政策提言

【第2次産業振興と創業支援】

- 事業承継支援として補助金制度を創設 40万円
- 人材不足への支援
「みのわU・Iターン応援プロジェクト」施策をパッケージ化
関連像事業費 183.800万円(詳細別紙)

【女性の活躍推進】

- 特技や趣味、起業など学べる場の提供
男女共同参画講演会等 93万円
クラウドソーシングの普及と仕組みづくり 708万4千円
女性就業支援相談事業 298万9千円

【観光の振興】

- 箕輪町の紹介動画(観光)をデジタル媒体で発信(H30実施)

木下区、箕輪進修高校からの提案

- JR木ノ下駅トイレ建設事業 1,493万1千円
- JR木ノ下駅駐輪場整備事業(H30事業) 203万1千円

町職員の政策研究による提案

- 若者同窓会支援補助金 30万円
- 保護者を対象とした就活講座等
(H30上伊那地域若者人材確保連絡協議会事業)

「みのわ U・Iターン応援プロジェクト」

予算発表用資料

平成31年2月20日 企画振興課 みのわの魅力発信室

経過

※平成27年10月～平成30年3月

〈体制〉

- みのわの魅力発信室を設置（平成27年10月）
- 移住定住アドバイザーの配置（1人）

〈住まい〉

- 若者世帯定住支援奨励金（51件）
- 空き家改修等補助金（19件）
- 空き家バンク（登録件数 67件）

〈仕事〉

- 無料職業紹介（就職 7人）

〈啓発〉

- 移住相談会への出席（東京、名古屋、大阪）
- 移住体験ツアーの開催（1回）
- 田舎暮らし体験住宅の設置運営（1か所）
- 移住促進PR動画の作成（1本）
- ホームページの開設
- パンフレットの作成（Ver. 1～4）

成果

移住者数 107人（平成28年度・29年度） ※みのわの魅力発信室関与分
うち 県外 30人、県内 77人（郡外57人、郡内 20人）

現状

【人口動態】

○近年、自然減が社会増を上回っている。
また、転入・転出者数の増加の傾向がみられる。
魅力発信室を設置翌年以降、社会増となっている。
(単位：人)

年	自然増減		社会増減			
	出生	死亡	増減	転入	転出	
H25	△71	194	265	△74	753	827
H26	△86	188	274	63	987	924
H27	△67	198	265	△28	972	1,000
H28	△44	204	248	10	1,022	1,012
H29	△93	186	279	12	1,036	1,024

【年齢区分別転出入の状況】

(H27～H29年)

- 20歳代では、女性が△121人と大幅な転出超過。
- 男女とも、子どもの転出が多い。

年齢区分	性別		総数
	男性	女性	
10歳未満	△33	△21	△54
10歳代	△42	△19	△61
20歳代	13	△121	△108
30歳代	15	1	16
40歳代	△2	10	8
50歳代	2	0	2
60歳代以上	27	38	65

(外国人を除く。)

出展：住民基本台帳人口移動報告

課題

- 1 今後も町の人口25千人を維持していくためには、自然増が難しい状況においては、**社会増を図ることが必要**であり、引き続き移住定住を推進していくことが重要。
- 2 子どもの転出が多い（特に10歳未満）ことから、**子育て施策等の充実**を図るとともに、主に**20～30代の若者・子育て世代のU・Iターンの促進を図ることが必要**。特に、進学や就職で県外（東京都、神奈川県、愛知県等）に転出した町民に対して、**ライフステージ**（就職時、子育て期等）に応じた**Uターンを促進する制度づくりが必要**。
- 3 人口の社会増減の大きな要因は、20歳代女性の転出超過であり、進学や就職等で町外に転出した女性が、その後20歳代後半から40歳代の子育て世代になっても転入超過となっていないことから、**特に女性をターゲットとしたU・Iターン施策の充実が必要**。
- 4 移住者が、みのわに移住して本当に良かったと思ってもらえるよう、**移住者の満足度の向上を図る取組が必要**。

基本方針

若者・子育て世代のU・Iターン促進

施策の柱

以下の**6つ柱をパッケージ化して展開**

⇒「みのわ U・Iターン応援プロジェクト」

〈柱〉

- ア 住まい確保策
- イ 就労・起業支援策
- ウ 移住者のフォロー体制の構築策
- エ 箕輪町とのつながり確保策
- オ Iターン促進策
- カ 若者・子育て世代を惹きつける魅力あるまちづくり
- キ 親等の家族からの働きかけによるUターン促進策
- ク 女性のU・Iターン促進策

※推進体制：庁内関係各課による「みのわ U・Iターン応援プロジェクト推進連絡会議」を設置

目標

計画期間 平成31年度～平成36年度（6年間）

平成36年度までに、次の目標を達成

- **移住者を増加** ※みのわの魅力発信室関与分
2016年・2017年：107人（年間平均54人） ⇒ **倍増 108人/年**
- **県外からの移住者を増加** ※みのわの魅力発信室関与分
2016年・2017年：30人（年間平均15人） ⇒ **倍増 30人/年**
- **20代～40代の女性の転出超過を抑制**
2015年～2017年平均：37人 ⇒ **半減 19人**
- **10歳未満の転出超過を抑制**
2015年～2017年平均：18人 ⇒ **ゼロ**

用語

「移住」・・・Uターン及びIターン（Jターンを含む。）
「若者」・・・18歳以上、40歳未満

※ ●：「キ 親等の家族からの働きかけによるUターン促進策」該当事業
下線：「ク 女性のU・I ターン促進策」該当事業

平成31年度当初予算案 183,800千円（再掲分は除外）

ア 住まいの確保策

予算 33,500千円

〈本格的に移住を考えている方へ〉

○移住促進リサーチ住宅【新】

〈土地・住宅を探している方へ〉

○空き地バンクの創設
(空き地等活用促進制度の創設)【新】

○空き家バンクの運営

〈住宅を購入・新築された方へ〉

○空き家改修費等補助金等【4,500千円】
●若者世帯定住支援奨励金【拡】【29,000千円】

イ 就労・起業支援策

予算 6,168千円

〈中小企業等への就労支援・起業支援〉

○U・Iターン応援就労・起業支援補助金【新】【2,200千円】

●U・Iターン応援特定人材就労奨励金【新】【3,000千円】

○U・Iターン応援就職活動支援補助金【新】【200千円】

〈企業の魅力の発信〉

○輝くゲンプロジェクト【拡】〔平成30年度→繰越〕

〈経済的負担の軽減〉

●U・Iターン応援奨学金返還等支援補助金【新】【768千円】

ウ 移住者のフォロー体制の構築策

予算 2,856千円

〈移住者の満足度の向上〉

○移住定住総合相談窓口の設置【拡】【2,831千円】

○箕輪町移住交流推進協議会【新】

○移住者里親制度【新】【25千円】

エ 箕輪町とのつながり確保策

**予算 5,133千円
再掲以外 4,633千円**

〈愛着心の醸成〉

○小中学校における箕輪学を学ぶ機会の更なる充実

○高校生のときに箕輪町の産業・企業のことを紹介【50千円】

〈箕輪出身者とのつながりの確保・維持〉

○ファンクラブ(平成30年度創設)の運営及び入会促進【拡】【4,283千円】

○若者同窓会支援補助金【新】【300千円】

〈キ 親等の家族からの働きかけによるUターン促進〉

●親等の家族からの働きかけによりUターンした場合の各種補助金の加算【新】【(500千円)】

オ I ターン促進策

**予算 44,417千円
再掲以外 40,651千円**

〈知名度の向上〉

○知名度向上フェアの開催【ゼロ予算】

○ふるさと応援寄附金【35,756千円】

○ファンミーティングの開催【新】【(935千円)】

〈移住候補者の掘り起し〉

○移住相談会の開催・出展等【2,665千円】

○移住体験ツアーの開催【拡】【1,228千円】

○移住体験住宅の運営【1,002千円】

〈移住希望者への利便性〉

○移住促進リサーチ住宅【新】

〈移住希望者への相談体制の充実(再掲)〉

○移住定住総合相談窓口の設置【拡】【(2,831千円)】

カ 若者・子育て世代を惹きつける魅力あるまちづくり

予算 95,992千円

〈幅広い世代の交流拠点の整備〉

○幅広い世代の学びの拠点づくり【新】

〈多様な働き方の創出〉

○飲食店創業支援補助金【新】【2,000千円】

○女性向けの起業支援講座等の開設【新】【834千円】

○女性のための就業相談窓口の開設【新】【2,989千円】

○女性の働きやすい環境づくり補助金【新】【1,500千円】

〈幅広い世代と多様な人材の活躍できるまちづくり〉

○町内女性によるワークショップ等の開催【拡】【80千円】

○若者が夢にチャレンジするイベント等の開催【新】【962千円】

○男女共同参画の更なる推進【1,395千円】

○クラウドソーシングの普及と仕組みづくり【7,084千円】

○企業誘致【新】【2,543千円】

〈子育て施策の充実〉

○みのわ版ネウボラの導入【新】

○子どもの好奇心を育む保育の実践【拡】【1,471千円】

○子育てに関する情報発信【拡】【8,837千円】

○学校教育の充実【拡】【49,546千円】

○放課後児童の安全・安心な居場所の提供【拡】【16,751千円】

安全安心の推進



NEW

① 安全安心パトロール隊創設 4,456千円

専任の職員が安全安心パトロール車による巡回を行い、子どもの見守り活動や地域の防犯活動、交通安全活動を支援します。特に、町民に直接、街頭犯罪の防止や交通安全を呼びかけることにより、町民の防犯意識・交通安全意識を高め、犯罪・事故の抑止につなげます。

主な業務

- ・ 地域の巡回パトロール
- ・ 小中学校下校時間帯の巡回パトロール
- ・ 学校、保育園、交番、公園等への立ち寄り
- ・ 地域防犯・交通安全等にかかる情報収集
- ・ 道路安全点検

② 防犯外灯の拡充 9,752千円

各区からの要望箇所以外に設置が必要と思われる箇所へ平成30年度からの3カ年で重点的に整備します。

主な設置対象

- ・ 交通量の多い主要町道
- ・ 主要道路の交差点、横断歩道
- ・ 国道バイパスの歩道
- ・ 防犯上必要と思われる箇所



セーフコミュニティ活動をベースとした
安全安心なまちづくり

安心
安全

NEW

③ 防犯カメラの設置 381千円

犯罪の抑止と事故防止を目的とした防犯カメラをみのわ天竜公園へ設置します。



④ 夜光反射材の着用促進 162千円

夜間の歩行者事故を防ぐため、公民館など公共施設での貸し出しや、中学生(新1年生)への配布を継続し、普及啓発します。



⑤ 運転免許自主返納の促進 1,000千円

高齢ドライバーによる交通事故を未然に防ぐため、運転免許証自主返納支援補助金による返納者の支援を継続します。

公共施設等総合管理計画(個別施設計画)の策定

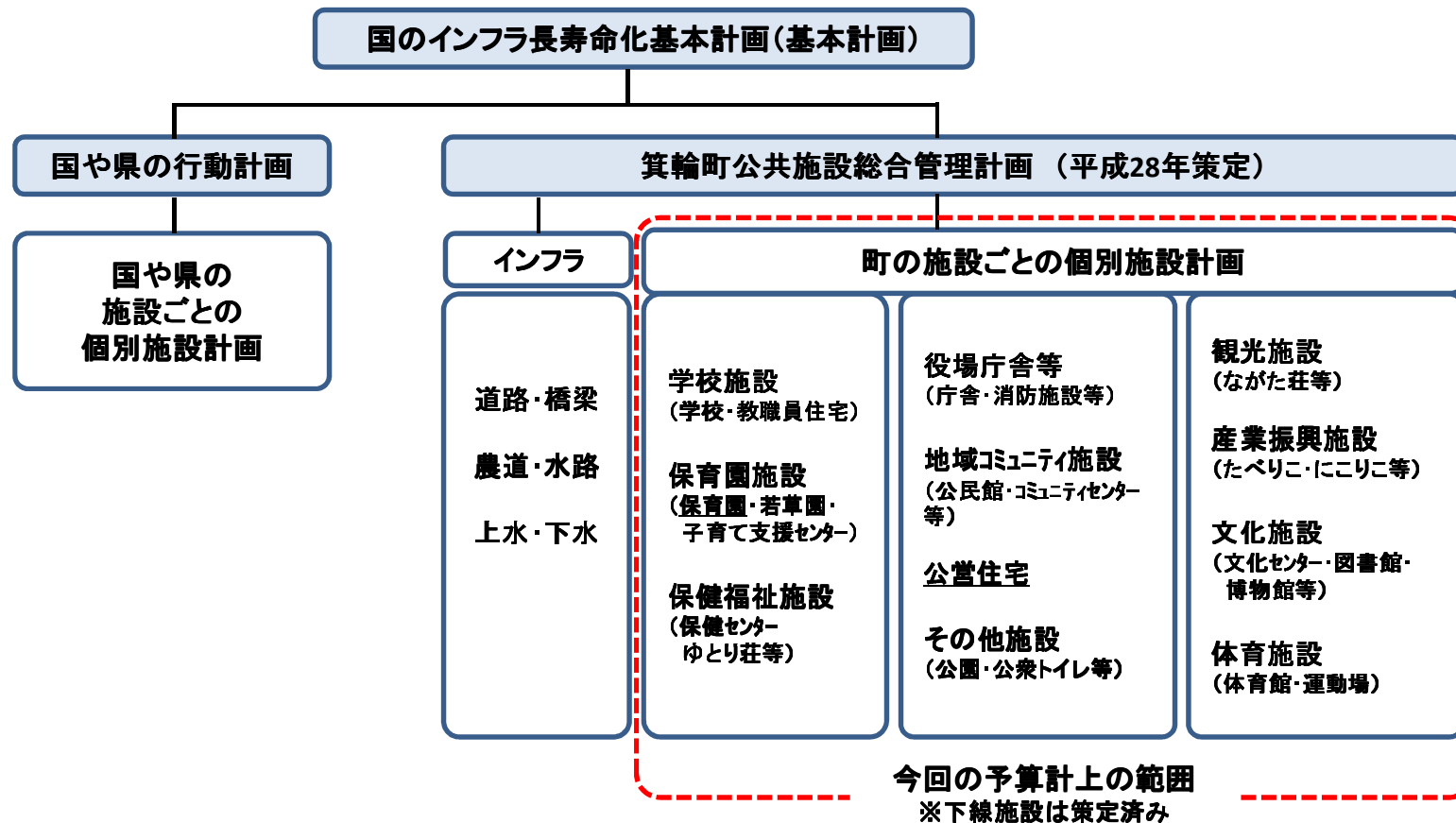
策定支援委託料 予算額 1,000万円 (総務費 600万円 教育費400万円)

企画振興課 財政係

公共施設の老朽化や、将来人口の減少等により、安全で安心して利用できる公共施設を継続的に提供していくためには、施設総量の縮減や長寿命化などによる更新費用の削減が必要となります。

平成28年度に策定した「公共施設等総合管理計画」により、長期的視点に立った、公共施設の総合的かつ計画的な管理に関する基本方針を定めていますが、施設ごとにより具体的な管理方針を示すため、総合管理計画に基づいた「個別施設計画」を策定します。

この計画には、町が所有するすべての施設について、学校施設や文化施設など用途ごとに分類し、一施設ごとに、管理に関する基本的な方針や実施方針、建物等の目標使用年数、大規模改修や建て替え等の実施計画などを定めるものです。



箕輪町健康増進計画の概要

計画の目的

一人ひとりが健やかに心豊かに生活するため、健康に関する正しい知識を身につけ、望ましい生活習慣を実践することにより「健康寿命の延伸」を図ることを目的とします。

計画の期間

2019年度より2026年度までの8年計画とします。

基本的な方針

一次予防の重視

適切な食事や運動不足の解消、禁煙や節酒、ストレスコントロールなど生活習慣を改善することで、健康を阻害する危険因子を減らし、生活習慣病の発症や進行を予防するものです。「自分の健康は自分でつくる」という視点にたって、一次予防を重視した対策を進めます。

計画の進め方

次の6分野を重要分野と定め、分野ごとに目標を設定し、健康づくりを進めます。

1. 栄養・食生活
2. 身体活動・運動
3. こころの健康
4. 生活習慣病・がん
5. 歯と口腔の健康
6. 母子保健

1. 栄養・食生活

自分の食事の適量を知り生涯を通じて3食バランスのとれた食生活を実践することにより適正体重を維持し、心身ともに健康に暮らすことができる。

- 食と健康との関係について正しい知識を普及します。
- 食育を推進します。

2. 身体活動・運動

無理のない範囲で行える自分に合った運動や身体活動についての情報を正しく理解できる。また実践にあたっては、楽しく、継続して実施できるよう工夫し、健康な身体・元気な身体の維持、獲得ができる。

- 健康づくりのための運動の習慣化を目指し、正しい知識の普及啓発と情報提供に努めます。
- 運動を楽しく、継続して行えるような環境の整備を進めます。
- 健康寿命の延伸に向けた取組を推進し、生活習慣病や要介護状態にならないための事業を推進します。

3. こころの健康

こころの健康に関する理解を深め、こころの健康を保持できる。気持ちを受け止め、寄添い見守ってくれる人や、相談場所などの体制が周囲にあり、追い詰められても自殺を選ばない。

- こころの健康づくりに関する正しい知識の普及と啓発に努めます。
- こころの健康維持のためのサポート体制の整備と充実を図ります。

4. 生活習慣病・がん

定期的に健康診査・がん検診を受診し、生活習慣を見直すことができる。精密検査や治療が必要な場合は医療機関を受診し、自分の健康管理ができる。生活習慣病予防の重要性を理解し、病気の発症と重症化の予防ができる。

- メタボリックシンドロームや糖尿病等の生活習慣病の予防に取り組みます。
- 各種健康診査やがん検診の受診率を向上させます。

- 重症化予防に積極的に取り組みます。
- 喫煙率を減少させ、肺がんや慢性閉塞性肺疾患（COPD）等の発症や脂肪を減らします。
- 関係機関や企業と連携した予防対策を行います。

5. 歯と口腔の健康

歯及び口腔の健康が全身の健康の維持管理につながることを理解し、高齢者になっても自分の歯でよくかめるようにするために、ライフステージに応じた歯と口腔の健康づくりができる。

- 歯と口腔の健康に関する知識の普及と正しい情報を提供します。
- 歯科健診・歯科指導の充実を図ります。

6. 母子保健

学童、思春期から自分の身体について学び健康課題を解決する力を身につけることができる。安心して子どもを産み育てる環境の中で母体の健康を保持し、妊娠、出産、育児ができる。すべての子どもが心身ともに健やかに成長できるように家族が協力し、切れ目なく地域資源を活用できる。

- 健康づくりや子どもの健やかな成長発達についての正しい情報と知識の普及、啓発を図ります。
- 健康づくりや子どもの健やかな成長発達のための切れ目のない体制づくりや環境整備を図ります。
- 妊産婦や子どもの健康を阻害する要因等の実態把握をしながら、母子の健康づくりに向けた対策の充実を目指します。

農業応援団計画

2019 (H31) 年度 主要な事業

農産物を買う (地産地消の推進)

○学校給食の町内産利用率 35%へ 188千円

「量」に加え「種類」の確保へ向け、生産・流通保管体制を向上します。(H30 28.8%)

○おもてなし牛乳の学校給食導入へ

地元酪農家の作る牛乳を、平成32年までに学校牛乳として飲める環境づくりを目指します。



町内の酪農家の乳量が約半分を占めます



圃場を見学する学校栄養士



農ある暮らしを楽しむ・農の魅力で人を呼ぶ

○交流菜園事業 (拡大) 636千円

「家庭菜園はじめの一步」として、技術の習得と交流をセットにした体験を提供します。人気が高いため、区画数を16→24に増やします。

○農ある暮らしを楽しむ「部活動」 (新) 272千円

味噌・米・醤油といった生活必需品を自給できる「農ある暮らし」を町の魅力と位置付け、原材料の栽培から加工まで、通年で体験する場を提供します。町民が農地を使う理由を作ること、町外者が農を切り口として、通年訪れる理由づくりにつなげます。初年度となる31年度は、味噌づくりを学びます。



にこりこー帯のリニューアル (基本設計) 2,000千円

町の「農の魅力」を核にしてにぎわう場所を目指し、リニューアルに向けて直売所、レストランの運営主体を求め、32年度オープンに向け取り組みます。

加工所については、みのわ加工(株)様により、一足早く町の農産物を使った加工品の製造販売が、春から始まる見通しです。



箕輪町工業ビジョン策定フロー図

産業振興課 商工観光推進室

上位計画

箕輪町第5次振興計画【2016～2025】

⇒基本構想:みのチャレ15 「Made in Minowa 2025」 商工業活性化チャレンジ

⇒基本計画:第4章 「産業が輝き、働く場所に恵まれたまち」⇒施策4「工業の振興」

目的

- I 工業の目指す姿の明確化
- II 施策・事業の方向性を明示
- III 企業、町、関係機関の役割の明確化
- IV 町の支援・連携体制の構築

- 1 技術向上セミナー、(継)新技術・新製品開発補助金
- 2 展示会・商談会支援、マッチング・マーケティング支援
- 3 経営指導、IOT・AI・ロボット等の導入支援
- 4 ネットワーク構築・共同受注グループ構築支援
- 5 (新)中小企業共同事業促進補助金
- 6 (新)産業に関する国際規格等取得補助金
- 7 (拡)工業製品試験手数料及び設備利用料補助金
- 8 シーズ・ニーズ調査、新分野進出支援
- 9 ものづくりの町ブランドのPR及びプロモーション
- 10 (継)ものづくり講座・インターンシップ受入支援
- 11 (新)事業承継支援補助金、企業誘致・留置
- 12 (継)中小企業人材育成研修費補助金
- 13 (新)ワンストップ型支援体制の構築(系の独立)

策定方法

- ①策定委員9人、全6回の委員会開催
- ②事業者アンケート実施 126/309社回答
- ③キー企業10社へのヒアリング実施
- ④統計、RESASを用いた現状分析⇒課題抽出
- ⑤目標、推進体制、具体的施策検討⇒素案作成
- ⑥パブリックコメント⇒1人から意見あり
- ⑦企業振興審議会への諮問(2/20)
- ⑧箕輪町議会への報告(3/18)

策定

箕輪町工業ビジョン【2019～2026】

(成長意欲を持ち、いつの時代も求められる企業が集積し、働く人が輝く「ものづくりのまち・みのわ」)

- ⇒政策1 個の競争力を高めるための挑戦
- ⇒政策2 連携による競争力向上の挑戦
- ⇒政策3 人材と企業に選ばれる町であり続ける為の挑戦
- ⇒政策4 企業支援体制のバージョンアップ

目標値(2026年)

評価・検証

- ・毎年度企業振興審議会へ報告(各施策に対し)
- ・2022年に検討委員会中間評価、アンケート実施⇒見直し
- ・2025年の第6次振興計画を受け再策定

- ・1事業所あたりの粗付加価値額の10%増加
- ・他社の追随を許さない技術保有企業割合 30%
- ・住民満足度調査における「工業振興」の満足度アップ
現状25/27位 ⇒20位以内